

平成25年4月9日

新宿区長 へ

法人名 日本カラーアートセラピー協会
所在地 新宿区坂町25-1
(フリガナ) ハナガタ マキコ
理事長 花形 麻貴子

事業実績報告書

新宿区協働推進基金条例施行規則第19条の規定により、下記のとおり報告します。

記

1 助成対象事業

事業名	心的支援事業～みんながみんなのサポーター～ 言葉を越えた心の架け橋 「カラーアート・メンタルサポーター養成講座」
実施日時又は期間	平成24年8月～平成25年2月（全6回開催）
対象者の範囲及び人数	新宿区在住、在学及び在勤の方 ストレスを感じている方 128名
事業内容	日頃ストレスを感じている全般の方を対象として、「言語を超えてカラーとアートで気持ちを吐き出し自分を見つめることが出来る方法」である「カラーアートセラピー」を学ぶ「カラーアート・メンタルサポーター養成講座」を開催する。本講座では、カラーセラピー（色彩心理療法）やアートセラピー（芸術療法）の基礎知識をはじめ、簡単な傾聴技法、手話も学んでいく。 本講座を通じ、身近にある「色」と「アート」というツールを利用した、日常生活でも行えるセルフケアの方法を普及するとともに、身近な人のケアをすることができる、地域に密着したサポーターの養成を図っていく。
具体的な活動状況	内容： 「カラーアート・メンタルサポーター養成講座」 「ユニバーサル・メンタルケア」をテーマに、カラーセラピー(色彩心理療法)やアートセラピー(芸術療法)の基礎知識を学び、簡単な傾聴技法、手話も習得できる、「自分の心のセルフケア～相手のケアサポート～」をテーマにした1日集中講座を新宿区在住・在勤・在学の方を対象に計6回実施(同内容)。 【1回の流れ】 ◎時間 12:30～受付 12:50～16:50 授業 ◎定員 20～30名(会場による)

	<p>【講座内容・カリキュラム】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. カラーアート・メンタルサポーターとは <ul style="list-style-type: none"> ・メンタルケアの必要性とメンタルサポーターの意義 ・ユニバーサルなメンタルケアって何？ ・カラーセラピー・アートセラピー・傾聴・手話の4つの方法を紹介 2. カラーアートセラピーの実践～スキュグル描画法 3. カラーとアートに投影される自己心理分析 <ul style="list-style-type: none"> ・シンボルやカラーでわかる心の状態と解説 4. 実践ロールプレイトレーニング <ul style="list-style-type: none"> ・傾聴(言語的カウンセリング)トレーニング ・カラーアートセラピー(非言語的カウンセリング)トレーニング 5. ふりかえり <p>※毎回ほぼ満席でした。</p> <p>※個人参加の方のみだけでなく、新宿区にある出版社等企業の方、区の団体職員の方、保育園の方、福祉施設の方、「新宿 NPO」冊子のライターの方、新宿区登録団体の NPO 法人の方々もご参加頂いたことでメンタルケアに対する意識・関心の高さと、地域コミュニティとしてのネットワーク構築に繋がっています。</p> <p>※参加者の方のうち 3 名は当協会正会員登録をしていただき、ボランティア等に既にご参加頂いています。</p> <p>※今回キャンセル待ちをしていただいたり、残念ながら満席にてご辞退いただいたり、また参加が不可能であった方から、次はいつ開催されますか？という問い合わせを頂いております。</p>
<p>事業の成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●協会の増加 →講座修了後に 3 名入会 ●地域における協会の認知の向上 →当事業講座に参加頂いた NPO 法人団体の方の紹介で新宿区社会福祉協議会・四谷地域担当及び四谷ボランティア・地域活動サポートコーナーの職員の方が当団体に訪問。 手話交流会事業にご賛同頂き平成 24 年 12 月末の回に新宿区社会福祉協議会から助成を頂き、平成 25 年 2 月 10 日の手話交流会「カラーアート製作手話交流会」を拡大編にて開催。四谷地域担当の方にも視察頂く。 また、新宿社会福祉協議会・聴覚障害交流コーナーの担当者の方からご連絡頂き、高次脳機能障害の方に向けた手話やカラーアートを取り組めないかという企画を頂き、現在調整中。 →「新宿 NPO」の冊子を見た新宿養護学校の重心児のひまわりプロジェクトの団体から、放課後指導の「カラーアート」の講師を依頼され、25 年度 2～3 回実施計画中。 ◎事業講座の修了・入会者がカラーアート・メンタルサポーターとして新宿区立男女共同参画推進センター開館 30 周年記念イベントの心

	<p>の健康広場「カラーアートパーク」にボランティアとして参加。</p> <p>同イベント参加頂いた四谷地域の一般企業の人事の方(出版社)から協会にランチ時間を使った社員のメンタルケアができないか問い合わせ頂き、現在企画提案中</p> <p>●協会員を含む参加者のスキル向上・活動の場の広範 →事業講座の修了・入会者がカラーアート・メンタルサポーターとして新宿区立男女共同参画推進センター開館30周年記念イベントの心の健康広場「カラーアートパーク」にボランティアとして参加。 ※後日の感想メールを資料として別添付</p> <p>●心の不調が深刻化する前段階での第一次予防、【セルフケア】の方法を、身近にある「色」と「アート」というツールを利用して日常生活でも行えるよう促進※アンケート統計資料として添付</p>
--	---

2 助成対象事業費内訳（実績）

※ 内訳は、できるだけ「単価×数量」で示してください。

※ 1万円以上のものについては、領収書（写し可）を添付してください。

収入	経費	積算根拠（内訳）		金額
	団体負担金			115,515 円
	参加費・資料代等	認定証・資料代 500 円×128 名		64,000 円
	その他の収入			円
	協働推進基金助成金	助成金申請額 500,000 円		
	計			679,515 円
支出（助成の対象になる事業費の内訳）	費目	決算額	内訳	
	会議費	29,700 円	四谷地域センター利用 3 回×2,400 円、BALIO TOTAL FACILITATE セミナールーム利用 3 回×7,500 円	
	宣伝費	86,880 円	周知用 A4 チラシ印刷 2 枚組 1,500 部 1 枚目（表カラー23 円、裏白黒 4 円） (23+4) ×1,500 枚=40,500 円 2 枚目（表のみ白黒 4 円） 4 円×1,500 枚=6,000 円 ・ポスターB3 大判 4,400 円、B3 大判溶剤 3,000 円 ・ポスターA2 大判 5,000 円、A2 大判溶剤 3,600 円 ・ポスターB3 大判光沢塩ビ 3 枚 9,000 円 ・破損・紛失ポスター2 枚追加(B3 印刷 2 枚 6,000 円 お急ぎ仕上げ※380 円 ・ポスターデザイン/制作料 9,000 円	
	消耗品費	18,872 円	・周知用 A4 用紙 3,000 枚 1,800 円 (1 セット 500 枚単価 300 円×6 個) ・修了証 A4 厚紙用紙 7,470 円(1 セット 10 枚単価 498 円×15 個) ・テキスト作成 170 名分（参加者、講師、スタッフ、予備分） (袋とじファイル 1 セット 10 枚単価 490 円×17 個=8,330 円) (テキスト用 A4 用紙一人 9 枚×170 名 1,530 枚) 1 セット 500 枚単価 300 円×4 個) =1,200 円 ホチキス玉 1 セット×1=72 円	

	謝礼	336,000 円	講師料 25,000 円×2 名 (講師・ファシリテーター各 1 名) ×6 回 ボランティア謝礼 3,000 円×2 名×6 回
	人件費	120,000 円	時給 1,000 円×4 時間×4 名×6 回 事前打ち合わせ 1 回 (時給 1,000 円×4 時間×4 名) 資料準備・確認 (1,000 円×4 時間×2 名)
	材料費	19,628 円	・アート画材 14,940 円 (色鉛筆単価 498 円×30 個※1 講座最大必要数) ※事業開催前 20+10 個発注 ※事業開催中 6 個紛失(持ち帰り)のため補填 追加で 6 個(498 円×6=2,988 円)発注 ・画用紙 100 円×17=1,700 円 (10 枚 1 セット 100 円×17 個)
	交通費	24,000 円	講師交通費往復 2,000 円×2 名×6 回
	その他諸経費	44,435 円	・テキスト(9 ページ綴り)印刷代 33,120 円 (カラー23 円×9 枚×160 名) ・修了証印刷代 580 円 (片面白黒 1 枚 4 円×145 名) ・各団体企業、協会正会員、賛助会員等への周知用 DM 郵送代 80 円×112 名=8,960 円 ※内 42 通(過去講座受講の法人・個人にチラシ送付) 180 円×8 名=1,440 円 ※チラシまとめて郵送(厚さ 3 cm 以上) 95 円×1 名=95 円(厚さ 2 cm 以上) 80 円×3 名=240 円 ※参加者領収書後日発送分
	助成対象事業費 (小計)	679,515 円	
	余 剰 金	0 円	
	助成対象外事業費	0 円	
	事業総額		679,515 円

3 助成事業の成果と課題

評価のポイント	自己評価
<p>事業を計画した当初に決めた目標について、どこまで達成できたか。</p>	<p>当事業の実施目標</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 参加者の集客 ② 地域を主体とした宣伝 ③ マンパワーの拡大 ④ 団体活動の認知 <p>上記目標において、①と②は、各地域センターや近隣等にチラシを設置したことにより、各回ほぼ満席にて目標達成できた。</p> <p>③のマンパワーの拡大においては受講者の内3名が正会員登録、及びその後のボランティア等へご参加頂けたこと、次年度のファシリテーターとして参加希望されていること等から企画意図は達成。人数の拡大においては継続課題。</p> <p>④においては各 NPO 法人との新規交流や各団体企業からの問い合わせやご依頼を頂くなどほぼ達成。</p> <p>また、アンケート集計にもあるように日常生活でもできるセルフケアの方法を学んでいただくという点で、非常によく達成できた。</p>
<p>地域にどのような効果があったか、又は今後見込まれる効果は何か。</p>	<p>◎参加者アンケートにもあるように、心の不調が深刻化する前段階での第一次予防としての【セルフケア】の方法を、身近にある「色」と「アート」というツールを利用して生活に簡単に活かしている、子どもにやってみたい、介護で利用したい、職場で使ってみたいという声が多く、実施後のイベント等にもリピート頂いた。（「事業の成果」の欄に記載）</p> <p>◎子ども、高齢者、障がい者までユニバーサルにサポートという点で、子育て支援センターの職員の方、児童館勤務の方等の参加、年齢層は50代→30代に次ぎ、60代の層が上位(アンケート統計資料参照)ということから幅広い層に認知、事業実施後に新宿養護学校のプロジェクトチームからカラーアートセラピーの課外活動依頼、新宿社会福祉協議会より、高次脳機能障害の方に向けた手話やカラーアートセラピーの働きかけの企画依頼、更に孤立してしまっている高齢者の方が主導的にカラーアートセラピーで「話を聴く」ボランティア等参加できないかとのお問い合わせを頂くなど十分な効果が得られた。</p> <p>今後の展望として、これら地域のカラーアート・メンタルを促進、家族や身近な方々へのケアの促</p>

	<p>進、スキルを活かして地域のコミュニケーション活性や、地域でのイベントや交流会等への参加により地域全体での「気づき」や「声かけ」などへの意識の向上、更に当事業「カラーアート・メンタルサポーター養成講座」でのファシリテーターや傾聴ボランティア等への参加、また各団体や企業での当講座開催が見込まれる。</p>
<p>費用対効果は適正であったか。</p>	<p>アンケート結果等からも、講座受講後に色やアート、手話などに興味を持ち正会員への入会、及び協会の活動に参加くださった方も多かったこと、また地域の各団体、企業よりの企画のご依頼等、費用に見合った高い成果を得られ、十分な適正効果と考える。</p>
<p>新たに気づいた課題・問題点は何か。また、どのような対策が考えられるか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・予想以上の申し込みがあり、キャンセル待ちや受講希望者全員にご参加いただけなかった点。会場や回数を見直すことで対応したい。 ・色鉛筆等の備品が終了後に紛失(6セット)。協会シール等を貼っていたが、備品であることの明確な告知と、退出時に修了証と引き換えにアンケートと共に返却という措置をとって対応を変更した。 ・当日のキャンセル(連絡なし、連絡あり含む)が毎回あった。前日の出席確認等の電話連絡を人件費、通信費との兼ね合いで検討中だが、申込時に変更キャンセルの場合は連絡下さいと案内しているため、チラシ等にもその点の文言を強調して記載することで対応できないか検討中。 ・託児希望者が多く、保育ボランティアの数の限界で先着順となり受講を断念する方がいた。社会福祉協議会のボランティア募集(無償)等も利用させて頂き対策を検討。 ・受講者は再受講できる旨を傳達していたが利用者はいなかった。同じ内容の講座に参加するメリットより、受講後に学びを深められるフォローアップ勉強会を500円～1000円の参加費で開催することで対策を検討中。 ・傾聴ボランティア等のスキルを向上し講師との質が開かないよう事前勉強会を実施してほしいとの意見もあり要検討。 ・手話通訳の対応はないのかという問い合わせも多く、個人で手話通訳士を頼める規定範囲も生活利用で限界があるとのこと、複数講座の一回は手話通訳を入れ、聴者とろう者が共に学べる機会を検討中。

理解者や支援者が広がったか。	この事業を通じて協会の活動に賛同し、会員になられた方もおり、また地域の様々な団体、企業から協会の活動に興味を持ってもらえたことは大きな理解を得られたことと感謝している。 詳細は「事業の成果」「地域への効果」の欄に記載。
事務局の執行体制は十分だったか。	申込受付の際、電話が集中して出られないことがあった。対応スタッフの増員及び、申込受付の FAX やメールを推進する旨チラシ等に強調するなど対策を検討中。
その他	ボランティアスタッフ 鈴木純子、伊藤ふみえ、黒瀬恵理、脇坂啓子

4 活動の成果

* 事業の成果物（冊子など）又は、事業の開催時の写真など提出できるものがある場合は添付してください。
* 参加者の意見なども報告してください。

※別添資料として添付します。

- ちらし
- テキスト
- 修了証
- 参加者アンケート(統計及び実物抜粋)
- 参加者及び入会者講座の感想文
- 講座写真
- 人件費・ボランティアデータ